

半田市図書館

- ニルスのふしぎな旅（上）（下）
- セルマ・ラーゲルレーヴ／作
- 菱木晃子／訳
- ベッティール・リーベック／画
- 福音館書店



トムテという妖精にいたずらをしてために、人間の手のひらくらいの小人にされてしまった少年ニルスの家で飼っていたガチョウのモルテンの背中に乗って、アツカひきいるガンのむれとともに、スウェーデンの北に向かって旅をします。旅の途中、ニルスには仲間を思う気持ちがめばえ、優しいりっぱな少年に成長していきます。

飛鳥村図書館

- おすのつぼにすんでいたおばあさん
- ルーマー・ゴッデン／作
- 中川千尋／訳
- 徳間書店



おすのつぼにすむおばあさんとねこのモルトは、貧しいけれど楽しい生活を送っていました。ある日、助けた魚の王様から願いをかなえてあげると言われ、おばあさんは広い家や新しい洋服、メイドなど次々に望みます。でも、暮らしがはなやかになるにつれ、おばあさんはどんどん不機げんに……。どうして願いがかなうたびに居心地が悪くなるの。そしておばあさんが最後に望んだものは……。身近にある幸せに気づかせてくれるお話です。

東海市立中央図書館

- だいじょうぶ
- いじょうぶ
- いうひろし
- 講談社



大きくなることがうれしいことばかりじゃないかもって思う時はありませんか。小さい頃は友達とけんかしてもすぐに仲直りができたし、明日になっても消えないモヤモヤって少なかったのに、みょうに長持ちする困ったことや心配事がふえてきたような気がする時ってありますよね。でも、だいじょうぶ。手をつないで、「だいじょうぶ」って言うてくれる人がきつていてくれます。「だいじょうぶ」ってモヤモヤとおとり合う、魔法の言葉なのです。

常滑市立図書館

- ハリー・ポッターと賢者の石
- J・K・ローリング／作
- 松岡佑子／訳
- Illustrated by Dan Schlessinger
- 静山社



こどくな少年だったハリー・ポッターは、運命にみちびかれるように魔法学校に入学し、友人と共にまほうの勉強を始めます。ハリーはじゃあくな悪の力と対決することになり、仲間と力を合わせてみごとに打ち勝ちます。世界中で大ぜいの人に親しまれ、映画でもおなじみのストーリーですが、ぜひ原作を読んで、夢とぼうけん、友情の世界を味わってください。本のおもしろさを感じ、シリーズ全部を読んだり、他の本を読むきっかけにしてほしいと思います。

### 知多市立中央図書館



● ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸ー  
 ● アーサー・ビナード／構成・文  
 ● ベン・シャーン／絵  
 ● 集英社

一九五四年三月一日、マーシャル諸島のビキニ環礁<sup>かんしょう</sup>でアメリカが行った水爆実験に、危険指定区域外にいた日本のマグロ漁船「第五ふくりゆう丸」が巻き込まれました。乗組員は死の灰を浴び、全員が放射能病になったうえ、一人が亡くなりました。地球に一つしかない空を汚し、どこまでもつながっている海を汚して、数え切れないほどの命を奪う危険な実験が繰り返されています。核の恐ろしさを、美しく、静かに、力強くうったえる絵本です。

### 大府市中央図書館



● 江戸しぐさから学ぼう  
 ● (全3巻)  
 ● 秋山浩子／文  
 ● 伊藤まさあき／絵  
 ● 汐文社

「肩引き」ってなに？ 「かさかしげ」ってなんだろう？  
 二百年以上続いた江戸時代。大きな戦争もなく、平和な毎日が続いたこの時代には、まちで暮らす人々が共に生きていくためのいろいろな知恵がありました。江戸のマナー、「江戸しぐさ」をあなたも覚えてみませんか。それぞれのしぐさはマンガでしようかいされています。江戸にまつわる豆知識ものついでるので、第二巻、第三巻も続けて読めば、いきでいなせな江戸っ子になれるかも知れません？

### 東浦町中央図書館

● モモ  
 ● ミヒヤエル・エンデ／作  
 ● 大島かおり／訳  
 ● 岩波書店



劇場の廃墟<sup>はいきよ</sup>に住みついた少女モモは、自由な生きかたをしながら、周りの人たちと仲良くなっていけます。モモの特技は話を聞くことで、話を聞いてもらった人は明るくなり、希望がわいてくるのです。そこに時間をぬすむ灰色の男たちがあらわれ、町の人たちは心に余ゆうがなくなりせかせかと暮らすようになります。モモは失われた時間を取りもどすため灰色の男たちに立ち向かっていきます。

### 阿久比町立図書館

● クマよ  
 ● 星野道夫／文・写真  
 ● 福音館書店



アラスカのみによくひかれ、ここに移り住んで写真をとり続けた星野さんは、さつえい中にクマにおそわれて亡くなりました。そのときに残された写真とメモをもとに作られたのが、この本です。夏の川でサケをとってかぶりつき、秋の野原で食べ物をさがすクマたちをとらえ、ゆう大な自然の中で生きる親子の愛らしさや生きていくきびしさが、写真から伝わってきます。星野さんの詩的な文章と共に楽しめます。

美浜町図書館



- 絵くんとことばくん
- 天野祐吉／作
- 大槻あかね／絵
- 福音館書店

おこづかいが月に五百円の優太君は、お母さんにおこづかいを千円に上げてもらうためにポスターを作ろうと計画します。その時、優太君の頭の中に現れた「絵」くん、「ことば」くんが、お母さんをあつといわせるようなアイデアをどんどん出して、色々なポスターを考えていきます。人に何かを伝える時、「絵」と「ことば」は欠かせないもので、この二つをうまく使って人の心に訴えかけるデザインをいかに作るかということを楽しく教えてくれます。

南知多町民会館図書室



- クウと河童大王
- 小暮正夫／作
- こぐれけんじろう／絵
- 岩崎書店

映画化もされ大好評の『河童のクウと夏休み』の続編です。河童のなかまさがしの長い旅からもどつてきたある日、クウはみんなと群馬県の山里へ釣りに出かけました。そこでクウは、天狗の一の坊と出会い、西のほうにすんでいる河童大王の一族がなかまを集めていることを知ります。実在の地名などが出てくるため、まるで本当にあった話のようで、河童が本当にいるかのように思えてしまう本です。

岡崎市立中央図書館



- シャーロットのおくりもの
- E・B・ホワイト／作
- ガース・ウイリアムズ／絵
- さくまゆみこ／訳
- あすなる書房

シャーロットは、灰色の大きなクモです。ハムにされてしまう運命の子ブタ、ウィルバーを「きせき」を起こして救い出します。さて、どうやってウィルバーの命を救ったのでしょうか。

「生きるって、どういうことだと思う？」「世の中でいちばんたしかなのは……。」

自然の中に生きる動物たちの言葉に耳を傾けてみませんか。

武豊町立図書館



- ヒキガエルとんだ大冒険
- (シリーズ)
- ラッセル・E・エリクソン／作
- ローレンス・デイ・フィオリ／絵
- 佐藤涼子／訳
- 評論社

シリーズ第一巻「火曜日のごちそうはヒキガエル」は一九八二年に出版され、読書感想文の課題図書に選ばれた本で、二〇〇八年に新しい訳で再登場しました。そうじが大好きなウオートンと、料理が大好きなモートンはヒキガエルの兄弟で、仲良く土の中の家で暮らしています。冒険も好きなウオートンは何かと地上に出ていき、大変な目にあつたりします。シリーズは一卷く七巻まであり、どの作品も、さまざまな困難を二ひきの優しい心と勇気で乗り越えていきます。



### 刈谷市中央図書館



- つるばら村のパン屋さん
- 茂市久美子／作
- 中村悦子／絵
- 講談社

つるばら村に宅配専門のパン屋をひらいたくるみさん。くるみさんの『三日月屋』には、村の人たちのほかに、なんともしかわいらしいお客さんから注文が来ます。山からおりてきたクマ。野原のウサギ。村に住むトラネコ……。くるみさんはお客さんのために心を込めてパンを作ります。かわいい動物たちとふつくら焼きたてのパン。きっとあなたもつるばら村に行きたくなる、夢いっぱいのお話です。

### 碧南市民図書館



- 絵とき ゾウの時間とネズミの時間
- 本川達雄／文
- あべ弘士／絵
- 福音館書店

体の大きい動物と小さい動物では、ちがうことがたくさんある。小さいものほど、せかせかしていて、大きいものは、ゆったりしている。体重がふえるにつれて時間はゆっくりになる。食べ物を食べてからウンコになって出て行くまでの時間、血液が体をひとめぐりする時間、赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいる時間、生まれてから死ぬまでの時間、そして寿命も……。でも、大きいゾウも小さいネズミも、一生の間、うつつ心臓の回数は同じなんだって！

### 安城市中央図書館



- みにくいシュレック
- ウィリアム・スタイグ／作
- おがわえつこ／訳
- セーラー出版

大きくなったのだから少し苦労をしたほうがよい、と両親にけとばされ、旅に出たシュレック。とちゅうで出会った魔女によれば、自分よりみにくい王女をめとらしたい。シュレックのあまりのみにくさに人もけものもにげまどうけど、シュレックは気にせずいい気持ち。稲妻だろが雷だろが、恐ろしい森でもおかまいなし。けむりやくさい炎を吐き、むかうはみにくい王女のもと。はたして、シュレックは生まれてはじめての恐怖にうち勝ち、王女に出会えるのでしょうか。

### 豊田市中央図書館



- あしによきによき
- 深見春夫／作・絵
- 岩崎書店

この本は、私をはじめ読んで読み聞かせをした時に選んだ本です。『あしによきによき』という名の通り、ポコおじさんの足がよきによきとのびていきます。足は、橋を渡ってとうとう町へ。困った町の人たちが、みんな引つ張ってもびくともしません。とそのとき、女の子が足の裏をくすぐると……。ポコおじさんの足はするするとちぢんで元通りに。ダイナミックなイラストとストーリー展開が楽しい、絵本の魅力がまった作品です。

知立市図書館



- バレエなんて、きれい
- ジェニファー・リチャード・ジェイコブソン／作
- 竹富博子／訳
- 講談社

小学三年生のウイニーはお父さんと二人暮らし。でも、小さいときからいつも一緒にいるヴェネッサとゾーイという友達がいるので、毎日楽しく過ごしています。ところが、学校でバレエ教室が開かれることになり、バレエに興味を持ってないウイニーは、二人との間に距離ができてしまいます。それぞれ大好きなことをして、仲良くしている方法、その素敵な解決策とは……。 「本当の友達」ってなんて素敵と心が温かくなります。

西尾市立図書館



- ムジナ探偵局 名探偵登場！
- 富安陽子／作
- おかべりか／画
- 童心社

「貉」―何と読むかわかりますか？へんてこ横丁にある古本屋・貉堂（むじなどう）の店主、「ムジナ探偵い」こと嶋雄太郎と、好奇心旺盛なおしかけ助手の少年・源太の迷コンビが挑むのは、ちよつとかわつた事件ばかり。夢でみた木箱の中味が知りたい（「白い木箱」）。アブが本当に知らせたかったメッセージは……。 （ちいさなアブ）。盗難とふしぎな男の子の関係は（「学校の事件」）。ムジナ探偵と一緒にふしぎなミステリーを楽しもう。

一色学びの館

- ウエズレーの国
- ポール・フライシマン／作
- ケビン・ホークス／画
- 千葉茂樹／訳
- あすなる書房



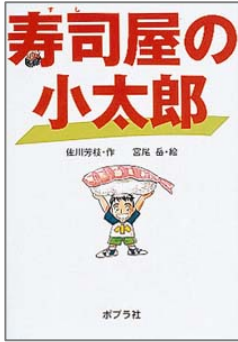
ウエズレーは、ほかの子とはちがうらしい。ある日ウエズレーは「いまにきつと、やくだつき」が口ぐせのおとうさんの言うとおりで、 「じぶんだけの文明」をつくろうとひらめいた。まずは、庭をたがやして、あたらしい作物をそだて始めた。そして、その作物でいろいろな物をつくり、とうとうウエズレーの国が出来た。そして、気がつくとうエズレーのまわりには変化が……。ウエズレーがじぶんだけの国をつくるそう大な夏の物語です。

高浜市立図書館



- すえっこ おおかみ
- ラリー・デーデン・プリマー／文
- ホセ・アルエゴ、アリアンヌ・デューイ／絵
- まさきるりこ／訳
- あすなる書房

姉さんや兄さんたちのようにうまく飛んだり走ったり出来ないすえっこおおかみ。そのせつない気持ち、父さんが優しく受けとめてやります。我が子を愛おしく見守りながら、その成長を穏やかに促していく父親の姿に教えられます。小さな瞳が安心して輝いていく様子が絵からも伝わるステキな一冊です。

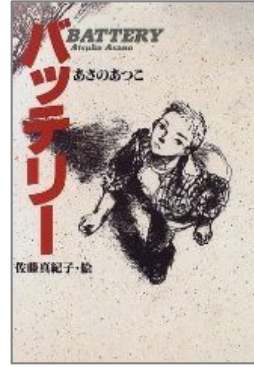


幸田町立図書館

- 寿司屋の小太郎
- 佐川芳枝／作
- 宮尾岳／絵
- ポプラ社

主人公は山本小太郎、十二歳。お寿司屋の二代目になるか、まだわからないけど。元気な小太郎が、家族・友達・まわりの人たちとの交流を通して成長していくシリーズ第一巻。著者の佐川芳枝さんは、本物の寿司屋のおかみさんです。お話の中に寿司屋用語やおいしい料理もでてくるよ。ちゃんと子どもの話をきいてくれる両親、近所付き合いや助け合いを通して、大人顔負けの小太郎の発見・体験がいっぱいのストーリーです。

吉良町立図書館



- バッテリー
- あさのあつこ／作
- 佐藤真紀子／絵
- 教育画劇

主人公の原田巧はピッチャーとして天才的で、たいへん大人びている。キャッチャーの永倉豪は器の大きな、温かい少年。その十三歳の二人が野球を通して、なやんだりぶつかりあったりしながら成長していきます。二人の少年の心の動きがていねいにえがかれ、巧や豪と同年代が読んでも、大人になってから読んでもそれぞれに共感でき、（全六巻）終りまでどんどん引き込まれてしまいます。映画化もされています。

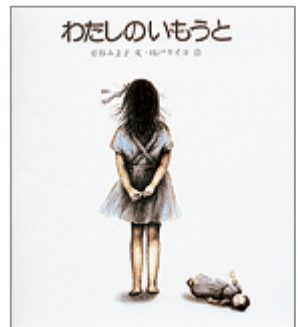


豊橋市中央図書館

- あおい目のこねこ
- エゴン・マチャー／作・絵
- 瀬田貞二／訳
- 福音館書店

ある日、あおい目のこねこは「ねずみのくに」をさがしに出かけました。「ねずみのくに」を見つければおなかをすかすことがなくなるから。でも「ねずみのくに」ってどこだろう？ 途中で会った魚や、はりねずみに聞いてもわかりません。それでも進んでいくと、五匹のねこに会いました。どうやら五匹のねこも「ねずみのくに」をさがしているみたい。さて、あおい目のこねこは「ねずみのくに」を見つけることができるでしょうか。

三好町立中央図書館

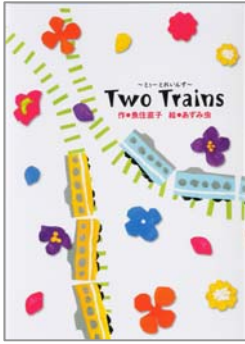


- わたしのいもうと
- 松谷みよ子／文
- 味戸ケイコ／絵
- 借成社

「この子はわたしのいもうと。むこうをむいたまま、ふりむいてくれないのです。」うしろ向きの少女のお話が姉によって語られます。七年前に引越すまでは朗らかだった妹。転校先の学校でいじめられ、登校しなくなった妹。ふりむかず、口もきかずにただつるを折り続ける妹。著者のもとに届いた一通の手紙をもとに、いのちと平和の大切さをえがいた絵本です。



蒲都市立図書館



- Two Trains
- ーとうーとれいんずー
- 魚住直子／作
- あずみ虫／絵
- 学習研究社

この本には五つの短いお話が入っています。その中の一つを紹介しましょう。「親友になりたい」五年生の一学期、夏美は大人っぽいふんいきを持った梨紗子と出会いました。ある出来事をきっかけに梨紗子、綾、かな子と親しくなります。梨紗子だけと仲良くなりたい夏美は、綾とかな子のささいな事にもいらだつてきます。そんな時に、かな子から思わぬことを言われて……。女の子同士のゆるれる心と友情をえがいています。

豊川市中央図書館



- 二分間の冒険
- 岡田淳／著
- 太田大八／絵
- 借成社

悟は学校の体育館から保健室へ行く間で、黒ネコ『ダレカ』に出会い、別の世界で信じられないような冒険をくりひろげます。現実にはたった二分間しかすぎないのに、冒険の世界では何日もかけて、「この世界で一番たしかなもの」を探しに旅をし、竜と戦います。なぞかけでは自分もいつしよになって考える楽しさがありますし、ワクワクドキドキしたなかで、愛情や仲間と助け合って解決するすばらしさを感じる事ができる物語です。

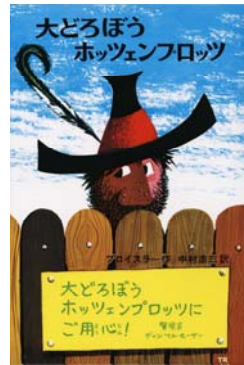
小坂井町中央公民館図書室



- にいさん
- いせひでこ／作
- 借成社

「ルリユールおじさん」のいせひでこがまたまた美しい絵本を作りました。「にいさん」とはヴィンセント・ヴァン・ゴッホのこと。ゴッホの生がいを弟テオの目を通してえがいています。オランダの牧師の家に生まれ、兄は画家となり、弟は画商となり、経済面で兄を支えた話は有名ですが、幼い日から兄の死まで、のこされた弟の思いを美しい（時には孤独な）風景とともに表しています。少し大人びた高学年にそっと手渡したい本です。

田原市中央図書館



- 大どろぼうホッツェンプロッツ
- オトフリート・プロイ
- スラー／作
- 中村浩三／訳
- 借成社

ある日、おばあさんが大事にしているコーヒーひきが、ぬすまれてしまいました。ぬすんだのは、悪名高い大どろぼうホッツェンプロッツ。カスパーは、友だちのゼッペルとホッツェンプロッツをつかまえようとはしますが、反対につかまってしまうました。二人は、無事にコーヒーひきを取り返せるのでしょうか。カスパーたちと、ちよつとまぬけなホッツェンプロッツや悪党魔法使いツワツケルマンとの知恵くらべが、ゆかいなお話です。

設楽町民図書室

- くまとやまねこ
- 湯本香樹実／文
- 酒井駒子／絵
- 河出書房新社



突然、仲良しの小鳥を失ってしまった、くま。現実を受け入れられずに家に閉じこもってしまいます。ある時、くまは、外へ出てみました。何もかもが新鮮に感じられました。そこで出会ったやまねここと交流が始まります。やまねこの、くまを思いやる言葉、心づかいに、くまはしだいに心を開いていきます。やまねこのひくバイオリンを聞きながら仲良しの小鳥を思い、そしてやまねこと一緒に新たな道を歩みはじめます。絵本ですが、いのちの大切さ、友達を思いやる気持ちを考えさせられる一冊です。

新城図書館

- 星新一
- ショートショートセレクション（全5巻）
- 星新一／作
- 和田誠／絵
- 理論社



非常に短い物語であるショート・ショートという分野をつくった星新一さんのSF童話集です。彼のすばらしいアイデアの数々が楽しめます。三十年ぐらい前の作品であるにもかかわらず、全く古さを感じさせません。時事問題や固有名詞は一切使わず、時代を感じさせないようにするというねらいが成功しているからで、このあたりにも注目してください。和田誠さんのイラストも楽しく、長く人生の友となってくれる作品が見つかる本です。

豊根村教育委員会

- 一ふさのぶどう
- 有島武郎
- ポプラ社



小学校に通っているぼくは、同じクラスのジムが持っていた美しい西洋絵の具をぬすんでしまいます。すぐに気づいたジムたちは、ぼくを先生のところへ連れて行きます。先生は、しからずに窓のそばのぶどうだから一ふさのぶどうをもぎとってぼくの手へ。次の日、先生は、一ふさのぶどうを真ん中から切ってぼくとジムの手の中へ……。読んでいくうちに、いつの間にか先生の思いや、ぼくやジムの気持ちを考えている自分に気づくでしょう。あたたかい気持ちになりますよ。

東栄町立図書館

- 銀河鉄道の夜
- 宮沢賢治
- 岩波書店



一人ぼつちの少年ジョバンニが、友達のカムパネルラと銀河鉄道の旅をする物語です。カムパネルラが自分の命をぎせいにして友達を救った事実を知ったジョバンニは、銀河鉄道の旅が何を意味していたのかに気づくこととなります。げんそう的にかつそうだいなスケール、あふれるほど豊かなイメージに満ちた、宮沢賢治の童話作品の最高峰です。